

出雲・隠岐海域漁場保全調査

(漁場環境保全対策推進事業)

柳 昌之

1. 研究目的

水産生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、八束郡鹿島町および隠岐郡西ノ島町沿岸域において水質、生物のモニタリング調査を実施する。なお、調査の詳細は「平成 16 年度漁場保全対策推進事業調査報告書（海面）」に報告した。

2. 研究方法

調査方法の概要は下表の通りである。

水質調査		調査地点	調査回数	調査項目、内容
		鹿島町5点 西ノ島町7点	隔月	水温・塩分・DOを水深別(0、2.5、5、10、15、20、30、40、底から2m)に測定。その他として水色、透明度の測定
生物モニタリング調査	藻場調査	鹿島町12点 西ノ島町10点	6、8月 6、8月	調査対象面積、水深の測定 藻場面積および、生育密度を5段階で評価
	底生生物調査	鹿島町5点 西ノ島町6点	6、8月	底泥の温度、粒度組成、COD、TS、底生生物の個体数・湿重量・種別または類別分類。

3. 研究結果

(1) 水質調査

透明度は鹿島町では8～18m、西ノ島町では8.5～22m。水温は鹿島町では11.7～25.6、西ノ島町では11.2～26.9。塩分は鹿島町では30.82～34.69psu、西ノ島町では33.52～35.11psu。DOは鹿島町では6.17～9.37mg/L、西ノ島町では6.59～10.03mg/Lであった。

(2) 生物モニタリング調査

鹿島町では多年生大型褐藻類のクロメ場12.5haを観察し、その結果6月が3～5点、8月が2～5点、平均がそれぞれ4.4点と3.1点であった。西ノ島町ではガラモ場0.5haを観察し、6月が2～5点、8月が1～5点、平均がそれぞれ4.3点、3.6点であった。

底質の結果は鹿島町で、CODの値は6月が2.5～3.4mg/g乾泥、8月が3.1～4.2mg/g乾泥であり、TSは両月ともNDであった。西ノ島町では、CODの値は6月が4.1～7.3mg/g乾泥、8月が3.1～6.4mg/g乾泥であり、TSは両月ともNDであった。

鹿島町ではSM採泥器1回当たりで採取された底生動物の個体数は5地点の合計で6月が923個体、8月が526個体であった。類別の構成については箒虫類phoronidae(ホウキムシ科)が優占したが水深との相関は何えなかった、多様度は定点1、2では6月が、定点3、4、5では8月が高かった。

西ノ島町では底生動物の個体数は6地点の合計で6月が315個体、8月が176個体であった。類別の構成については両月とも多毛類が優占し、多様度は、定点6は両月ほぼ同様であったが他の定点は8月の多様度が高かった。

鹿島町、西ノ島町ともに汚染指標種に指定されている底生生物の生息は確認できなかった。